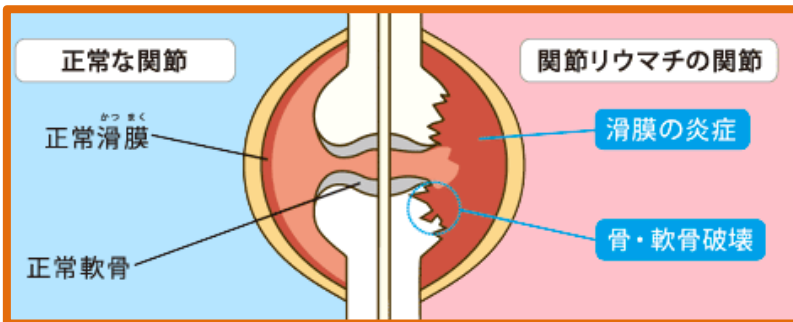


●関節リウマチとは

関節リウマチとは、関節が炎症を起こし、軟骨や骨が破壊され、放っておくと関節が変形してしまう病気です。関節は腫れ、激しい痛みを伴います。関節を動かさなくても痛みが生じるのが、他の関節の病気と異なる点です。左右の関節で同時に症状が生じやすいことも特徴です。



関節リウマチで生じる関節の腫れと痛みは、免疫の働きに異常が生じたために起こると考えられています。誤って自分自身の細胞や組織を攻撃してしまい、炎症が生じ、関節の腫れや痛みとなって現れます。また炎症が続くと、関節の周囲の滑膜が腫れ上がり、骨や軟骨を破壊していきます。

●30代～50代の女性に多く発症します

関節リウマチが発症するピーク年齢は30～50歳代で、男性よりも女性の方が約4倍も多く発症します。しかし、60歳以降に発症する方も少なくありません。

関節リウマチの症状は、他のリウマチ性疾患の症状と似通っているため、関節リウマチかどうかを自分で判断することは簡単ではありません。関節リウマチの診断は問診、診察、血液検査などに基づいて専門医が行うことになります。最近海外では、関節リウマチを早期に診断するために、関節が1箇所でも腫れていて、画像診断で炎症による骨病変が確認できれば、関節リウマチと診断する予備診断基準が発表されました。

1つ以上の関節の腫れがある
(触診、超音波、MRIのいずれか)

腫れまたは痛みのある関節の数
(診察)

血液検査値異常の有無
(リウマチ因子、抗CCP抗体)

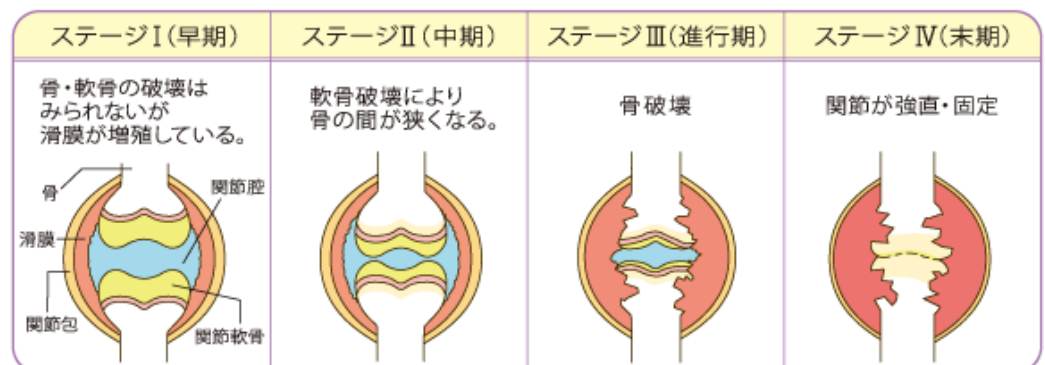
関節炎の持続期間
(6週間未満／6週間以上)

炎症反応の有無
(CRP・ESR)

関節リウマチの診断基準

●早期に発見、早期に治療すれば関節破壊の進行を抑制できます

関節リウマチは、関節が破壊され、変形して動かなくなってしまう病気です。最近の研究では、関節破壊は、関節リウマチの発症後、早期から進行することが明らかになりました。しかし、早期に発見して、早期から適切な治療を行えば、症状をコントロールし、関節破壊が進行するのを防ぐことができます。



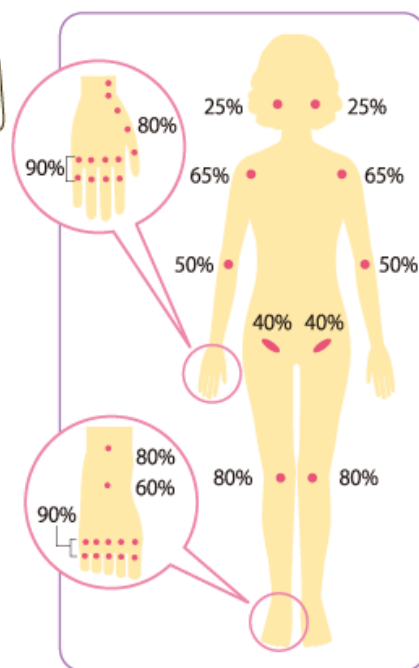
できます。

● 関節リウマチの代表的な初期症状

関節リウマチの代表的な症状に朝のこわばりや左右対称の関節症状があります。またその他の身体症状が関節リウマチの症状であることも。下記の症状が6週間以上続く場合には検査が必要です。



関節症状の好発部位



朝のこわばり

朝起きてしばらくは関節が思うように動かないことです。朝のこわばりがひどく、早朝の家事や仕事がつらいことがあります。

関節症状

関節リウマチでは特に指、手関節、肘、膝、足関節などで痛みと腫れが生じます。関節リウマチでは、右半身の関節に症状が出ると、左半身の同じ箇所の関節にも症状が認められます。このような症状の出方を左右対称性といいます。

その他身体症状

微熱・疲労感・だるさ・食欲不振・体重減少など

● 早期発見・早期診断のために血液検査を受けましょう

関節リウマチは早期に発見し診断・治療を行うことが最も重要です。そのためには専門医による診察と血液検査が重要です。

リウマチ因子

ヒトのIgGというたんぱく質に対する抗体で、関節リウマチの炎症に関係します。関節リウマチ患者では約80%の方がリウマチ因子陽性となります。ただし、正常人でも1~5%で陽性になりますし、リウマチの方でも5%の方は陰性です。あくまでも目安ですが、数字が高いほど、重症になりやすく、関節の変形が進みやすい傾向にあります。

CRP

肝臓でつくられるたんぱく質で、体に炎症が起こると増加し、関節の炎症の進行度を予測します。

※その他白血球・血沈・抗CCP抗体・肝機能検査・腎機能検査等を実施する場合があります

● 関節リウマチの治療法

関節リウマチの治療目的はリウマチの症状・兆候が消失した「寛解」の状態にもっていくことです。関節リウマチの治療法として、症状や進み具合に合わせて、薬物療法・手術療法・リハビリテーションなどが行われます。

治療の目的

- ① 関節の痛みや腫れをとる
- ② 骨・関節破壊の進行を抑える
- ③ 生活機能(QOL)を改善する

治療の方法

- ① 薬物療法…消炎鎮痛剤・抗リウマチ薬・ステロイドなど
- ② 手術療法…滑膜切除術・人工股関節など
- ③ リハビリテーション…運動療法・温熱療法など

バックナンバーはホームページよりダウンロードできます。

定期購読を希望される方や内容についてのご質問がございましたらお気軽にお問い合わせください。